



千葉県議会6月定例県議会にて 安藤じゅん子が一般質問に登壇しました

みなさま、こんにちは。立憲民主党・千葉県議会議員 松戸市選出の安藤じゅん子です。
6月7日、千葉県議会にて一般質問に登壇いたしました。今回は、「教育」「福祉」「いのちを守る」
という3つのテーマに絞り、県民目線で、内容の濃い質問を行いました。一般質問の一部を抜粋して
ご紹介します。

今後も県政発展のため、多様な県民の声が届く千葉県政実現のため尽力してまいります。皆様、
ぜひお気軽にご意見、ご要望をお寄せください。

| 県民のいのちを守る取り組みについて



保育所の送迎バスについて

質問の背景 昨年夏に福岡県で、保育園の送迎バスの車内に置き去りとなった児童が熱中症で死亡するという痛ましい事故がありました。

このような事故が二度と起らないように、保育所における児童の安全確保に関して、現行法の問題点などを挙げ、千葉県選出の小西ひろゆき参議院議員が先頭に立ち、児童福祉法の改正に尽力してきました。

安藤質問 福岡県で起きた保育所の送迎バスにおける置き去り事故を踏まえ、千葉県ではどのように対応したのでしょうか？

また、国において、児童の安全を確保するため、児童福祉法の改正が進められていますが、千葉県では、今後どのように対応するのでしょうか？



熊谷知事 福岡県の事故を踏まえ、県では、昨年8月、保育所に対し、送迎バスの乗降時等に園児の人数確認を徹底することなど、保育中の事故防止のために特に留意が必要な事項をまとめたチラシを配付し、改めて注意喚起を行いました。

現在、国会では、保育所におけるこのような重大事故の発生を防止するため、児童福祉施設の運営基準に「児童の安全の確保」に関する事項を加える児童福祉法改正案が審議されているところです。

県では、改正法の成立後、速やかに、保育の実施主体である市町村と連携し、保育所において、法の趣旨に沿った必要な安全対策が講じられるよう支援してまいります。

安藤要望 児童福祉法の改正に関し、国からの通知が発出され次第、市町村と連携して、迅速かつ的確な対応をよろしくお願いします。

| 県民が安心して福祉サービスを利用できるために



指導監査について

質問の背景 福祉施設指導結果報告は、福祉施設が不適正なサービスの提供を行っていないか、悪質な法令違反をおこなっていないか、国や市町村など関係機関と連携して、県として、県内福祉施設の質や事業運営の透明性の向上につとめている結果を県民に広く知つてもらう取り組みであり、大変有効だと考えます。

また、結果報告の取り組みを神奈川県も埼玉県も実施しているそうです。

安藤質問 社会福祉法人及び社会福祉施設等に対する指導監査結果を、千葉県も公表してはどうでしょうか？

熊谷知事 県では社会福祉法人や社会福祉施設等において、法令等に定められた基準に沿った運営がされているか、定期的に指導監査を行い、改善が必要な事項については指導し、その対応状況を確認しています。

指導監査結果を公表することは、法人・施設等におけるより適正な事業運営と利用者へのサービス向上に資するものと認識しています。

今後、公表に向けて課題を整理し、他県の状況も確認しながら、検討を進めてまいります。

安藤要望 指導監査結果の公表については、県民が安心して質の高いサービスを選択できることにもつながるので、是非とも着手してください。



多様性を尊重する共生社会の実現に向け、 インクルーシブ教育の推進拡大などを求めました



学習機会の確保について

質問の背景

インクルーシブ教育とは、障がいの有無にかかわらず、すべての子どもを通常学級に在籍させ、障がいのない子どもたちと同様に教育・指導するものです。

人間の多様性を尊重する共生社会の実現に向け、熊谷知事が掲げる県政ビジョンにおいても、インクルーシブ教育の推進や医療的ケアが必要な児童生徒への支援の充実などが盛り込まれています。

千葉県も今年度から「県立高校改革推進プラン」がスタートし、まさに現在、実施プログラムを策定するタイミングを迎えています。

これまで県立高校10校で、大部分の授業を通常の学級で受けながら、障がいに応じてオーダーメイドの指導を実施しています。

さらに、特別支援学校に在籍する、児童生徒を居住地域の小中学校に「副次的な籍」を置く方向性もかたまり、共生社会を目指す取り組みが強化されています。

安藤じゅん子は千葉県におけるインクルーシブ教育をさらにもう一歩進め、先日視察した神奈川県のように軽度知的障がいを持った県内中学校生徒が、県立高校に進



学できる取り組みを進めるべきだと考え質問しました。

また、医療ケア児をサポートするための看護師の配置状況などについても質問しました。

安藤質問

「県立高校改革推進プラン」では、改革の方向性として、共生社会の実現や多様な学習ニーズに対応した教育の推進を掲げているが、今後どのように取り組んでいくのでしょうか？

教育長

「県立高校改革推進プラン」では、共生社会を実現するため、多様性を認めるための幅広い交流・学習や、さまざまな配慮を必要とする生徒に対する個々に応じたきめ細かな支援を推進することとしています。

具体的には、高校の生徒と特別支援学校の生徒とが、パラスポーツを通じて交流したり、学校行事や学習活動を共同で行ったりしています。また、学習や生活上のつまずきを抱える生徒に、それぞれの状況に応じた指導を行う通級指導や、外国人児童生徒等教育相談員の配置などにも取り組んでいます。

今後も、各学校におけるこうした取り組みを支援するとともに、優れた事例の情報提供を行い、すべての生徒が生き生きと活動し、自信を育む学校づくりに努めてまいります。

安藤要望

「県立高校改革推進プラン」では、改革の方向性でも共生社会の実現などを掲げています。是非、一步踏み込んで、神奈川県が行っている軽度知的障がいを持った生徒が県立高校に進学できる取り組みをお願いします。

安藤質問

現在、議論されているフリースクールへの財政支援について、県はどのように考えているのでしょうか？

教育長

不登校児童生徒の支援にあたっては、個々の状況に応じたきめ細かい支援を行う観点から、学校とフリースクール等民間支援機関との連携は、大変重要であると認識しています。

一方で、フリースクールについては、設置基準が定められておらず、児童生徒への支援内容や費用等がさまざまであることから、昨年度は、フリースクール関係者との情報交換会等を通じて、運営状況等を聴取するとともに、フリースクールへの支援に取り組んでいる自治体を視察するなど、調査を行ってまいりました。

安藤要望

県教育委員会が発行している不登校支援パンフレットに記載されている「適応指導教室」という名前について、当事者に寄り添った言葉ではないと、関係者からも指摘されているため、今後は使用を改めるよう、県内市町村教育委員会へ働きかけをお願いします。

安藤質問

市町村立学校における医療的ケア児に対する看護師の配置状況はどうでしょうか？

教育長

令和3年度は、県内の13市が、国の補助制度である「医療的ケア看護職員配置事業」を活用して、小・中学校等33校に41人の看護師を配置しました。

令和4年度は、16市町の小・中学校等49校に69人の看護師を配置するため、国に補助申請をしているところです。

安藤要望

家族の離職防止や、安心して子どもを産み育てることができる社会の実現に向けて、医療的ケア児及びその家族への支援を一層図っていただきたい。



プロフィール

安藤じゅん子(立憲民主党千葉県議会議員 松戸市選出)

1976年5月29日生まれ、松戸市立小中学校卒業後、共立女子高校・早稲田大学社会科学部卒業。出版社営業を経て2010年より松戸市議会議員。2015年より千葉県議会議員(現在2期目)。文教常任委員会委員。千葉県水道事業運営審議会委員。

FAX:050-3488-7708 Eメール:contact@andojunko.net

ホームページ

<https://andojunko.net/>

ツイッター

<https://twitter.com/andojunko>

Facebookページ

「安藤淳子と少子化・子育てを考える会」

<https://www.facebook.com/andojunko0529/>

